

プロジェクト学習におけるリフレクションを評価するためのループリック開発

Development of Rubric for Personal Reflection in Project Based Learning

上田 勇仁^{*1 *2}

Hayato UEDA

大阪大学大学院人間科学研究科^{*1}

Graduate School of Human Sciences, Osaka University

大正大学教育開発推進センター^{*2}

Educational Development Center, Taisho University

＜あらまし＞ プロジェクト学習において、リフレクションの重要性がこれまで指摘されてきたが、毎回の授業の終了後に実施する個人のリフレクションを検証した研究は少ない。本研究では、教員が設定した到達目標に関連するリフレクションの記述を評価するためのループリックを開発した。「授業内容・経験」「専門知識の応用」「チームワーク」「計画」の項目ごとに3段階で評価項目を設けた。今後対象となる授業のなかでループリックを活用して、3段階評価の妥当性を検証する。

＜キーワード＞ プロジェクト学習 リフレクション 学習評価 教育方法 授業設計

1. はじめに

大学教育のなかで、Project Based Learning(以下プロジェクト学習)が多く採用されており、学習者の問題解決能力や協調性を促す効果があると指摘されている。経験を重視した教育手法においては、リフレクションの重要性が指摘されている(河井・木村 2013)。プロジェクト学習におけるリフレクションは、集団で実施する形式や、個人で取組形式がある。集団で実施する形式においては、「質問会議」というリフレクション手法がグループワークの改善にどのように寄与したか検証した研究が存在する(館野・森永 2015)。

個人のリフレクションは、授業ごとにどのような学習活動に取り組んだのか、成果物を創造していくためにどのような計画が必要なのか、自分で検討していく重要な機会になると考えられる。ただ、プロジェクト学習において個人のリフレクションに視点を当てた研究は少なく、個人のリフレクションをどのように支援し、より深い思考を促していくべきか、その方略を示していく必要がある。

本研究では、プロジェクト学習における個人のリフレクションを評価するためのツールとしてループリックを開発した。ループリックの中で示した指針にそってどのように個人のリフレクションを支援すべきか検証する。

2. 授業概要

対象となる授業は首都圏の私立大学において、開講された授業である。受講者は、地域における

課題解決に繋がるイベントとして、「地域に開かれた盆踊り」を企画・実施する。当授業は共通教育科目で開講され、受講者は表現学部、人間学部など、複数の学部学科に所属しており、1年生から4年生が受講している。また、プロジェクト学習の特徴を踏まえた授業を設計するため上田ほか(2013)のプロジェクト学習支援ツールを活用した。

3. ループリック

研究対象となる授業のシラバスのなかに到達目標を記入する項目がある。受講者は各回の授業終了後、到達目標に関連する項目にそって個人のリフレクションを記入していく。開発したループリックは、到達目標ごとに記入された個人のリフレクションを評価するために3段階で評価指針を設けた(表1)。また、ループリックの3段階の評価指針を設定する際には、クリティカルリフレクションと非クリティカルリフレクションの比較(河井 2012)を参考に段階を設けた。受講者は、次の4つの項目を各回の授業終了後に記入し、教員は受講者がどの程度到達目標に近づいているのか評価指針を使って確認する。

「授業内容・経験」においては、授業内で教員が講義した盆踊りの歴史、イベントの企画・運営法について、受講者は学習したこと記入する。授業内容・授業でおこった出来事の羅列に留まつていれば1点とした。授業の経験について自身の解釈を記述していれば2点として、授業で経験したことと、他の科目や自身の経験を関連付けなが

表1 対象の授業で開発したループリック

	優れている（3点）	良い（2点）	もう少し（1点）
授業内容 ・経験	授業内容・経験について自身の解釈を記述している。これまでの自身の経験や授業で学習したことと関連付けながら解釈を記述している。	授業内容・経験したことについて自身の解釈を記述している。	授業内容・授業で起こった出来事の羅列に留まっている。
専門知識 の応用	自分が応用した・実践した出来事に関する記述があり、良かった点・悪かった点に関する記述内容が具体的になっている。	自分が応用した・実践した出来事に関する記述があり、良かった点・悪かった点に関する記述もある。	自分が応用した・実践した出来事に関する記述があるが、良かった点・悪かった点に関する記述がない。
チーム ワーク	チームでの活動に関する記述と自身の役割に関する記述があり、よかったです点・悪かった点に関する記述内容が具体的になっている。	チームでの活動に関する記述と自身の役割に関する記述があり、よかったです点・悪かった点に関する記述がある。	チームでの活動に関する記述と自身の役割に関する記述のいぢれかしかない。
計画	今後の計画について記述があり、計画を実行するために必要な行動が具体的である。また、数値目標・期日など数字を示している。	今後の計画について記述があり、計画を実行するために必要な行動が具体的である。	今後の計画についての記述がある。

ら記述できていれば、3点とした。

「専門知識の応用」においては、受講者が既に身につける知識や技術を授業のなかで応用した結果について記入する。自分が応用した・実践した出来事に関する記述があるが、良かった点・悪かった点に関する記述がない場合は1点とした。自分が応用した・実践した出来事に関する記述があり、良かった点・悪かった点に関する記述があれば2点とし、良かった点・悪かった点に関する記述内容が具体的であれば3点とした。

「チームワーク」においては、受講者がグループワークのなかで、どのような役割を担い、グループワークの活動内容について記入する。チームでの活動に関する記述と自身の役割に関する記述のいぢれかしかなければ1点とした。チームでの活動に関する記述と自身の役割に関する記述があり、よかったです点・悪かった点に関する記述があれば2点とし、よかったです点・悪かった点に関する記述内容が具体的であれば3点とした。

「計画」においては、受講者は前項の内容を踏まえつつ、今後の行動計画について記入する。

今後の計画について何らかの記述があれば1点とした。今後の計画について記述があり、計画を実行するために必要な行動が具体的であれば2点とし、計画について数値目標・具体的な期日を記入していれば3点とした。

4. 今後の課題

開発したループリックを対象となる授業のなかで導入し、ループリックの評価項目や、各項目の3段階評価の妥当性を検証する。また、ループ

リック評価の結果を踏まえ、プロジェクト学習において個人のリフレクションを支援するための方略を検討する。

謝辞

授業設計に協力いただいた方に感謝いたします。

参考文献

- 河井亨, 木村充 (2013) サービス・ラーニングにおけるリフレクションとラーニング・ブリッジの役割: 立命館大学 「地域活性化ボランティア」調査を通じて. 日本教育工学会論文誌, 36 (4) :419-428
- 河井亨 (2012) リフレクションを支援する教授法についての探求: Learning Through Critical Reflection の分析を通じて. 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要 20, 19-30,
- 館野泰一, 森永雄太 (2015) 产学連携型PBLにおける質問を活用した振り返り手法の検討. 日本教育工学会論文誌 39 (Suppl.) 97-100
- 上田勇仁, 根本淳子, 鈴木克明, 合田美子 (2013) 高等教育機関におけるPBL設計支援ツールの開発と形成的評価の試み. 日本教育工学会研究報告集, 13 (3) : 7-14